

Injury Alert (傷害速報)類似事例

ヘリウムガス入りスプレー缶の吸引による縦隔気腫

(No. 53 ヘリウムガス入りスプレー缶の吸引による意識障害の類似事例1)

事例	年齢：8歳 11か月 性別：男 体重：30 kg 身長：131 cm
傷害の種類	肺損傷
原因対象物	ヘリウムガス入りスプレー缶 (市販の変声用のパーティグッズ：ヘリウム 80%, 酸素 20%の混合ガス)
臨床診断名	縦隔気腫
医療費	185,420 円
発生状況	発生日・時刻 2015年 6月 28日 午後 4時 30分
	発生時の詳しい様子と経緯 声を変えて家族を驚かせる目的で、大型量販店で購入したヘリウムガス入りスプレー缶（容量は 11.6L、複数回用、使用年齢は 10 歳以上と記載あり）を購入した。家の前の車の中で、息を吐いて鼻をしっかりとつまみ、父が児に 3 秒間程ヘリウムガスを吸引させた。直後から児がうずくまり、頭痛・胸痛を訴えた。立ち上がるとふらつきがあり、両下肢に力が入りづらかった。5 分程で両下肢は力が入るようになったが、頭痛・胸痛が持続するため、近医を受診し、精査・加療目的に当科紹介入院となった。
治療経過と予後	発症 1 時間で当科紹介受診時には、バイタルサインは安定し、身体所見・神経学的所見で異常は認めなかったが、頭痛・胸痛は持続し、嘔吐を認めた。頭部 CT で脳空気塞栓症を疑う所見は認めなかったが、胸部 X 線・胸部 CT で縦隔気腫を認めた。入院時より酸素化不良は認めなかったが、縦隔気腫の改善を期待し、酸素投与を行った。発症 3 時間で頭痛・胸痛は改善傾向となり、入院 2 日目には消失した。胸部 X 線を連日評価し、次第に縦隔気腫は消褪傾向となり、入院 5 日目に退院とした。 発症 12 日目（退院後 7 日目）の再診時には、胸部 X 線上縦隔気腫の消失を認め、外来通院は終了とした。